



●美馬町エリア

古代、文化の先進地

風情ただよう 寺町めぐり

寺町散策

美しいふるさと

川をどんとんさかのほり、山あいに入ったあたり、ここは都かと思えるほどの山門がそびえ、堂々たる伽藍が建ち並びます。美馬にある「寺町」は、その優美さ、その技の高貴さで、深い歴史を物語っています。山里に突然現れる、壮大な伽藍、明々とあかりがともされた石灯笼、覆い被さるようにせまる山門の姿。昔の旅人たちは、この風景と文化の高さに感嘆したに違いありません。

その昔、阿波西部の中心地として栄えていたのが美馬エリア。いにしへの文化において、大寺院は権力の象徴。例えば寺町に残る国指定史跡「郡里廃寺跡」は、約1300年前の白鳳期に建立された徳島県最古期の寺院。その規模は広大で、七堂伽藍が立ち並んでいたと思われまます。当時、地方において、これだけの大伽藍が造営されていた事実は驚くべきこと。いかに美馬の地が文化の先進地であったかが伺えます。

ここには、奈良時代から始まる「願勝寺」、四国最古にして、最有力の真宗寺院「安楽寺」など、深い歴史を物語る寺院の数々が建ち並び、風情ある古都めぐりの気分を味わうことができます。



寺町



青木家住宅



郡里廃寺跡



願勝寺の枯山水

ふるさとワンポイントガイド



美馬能楽の会代表
安楽寺副住職
千葉 昭彦さん

古代からの文化が伝わる寺町を訪ねることで、ダイナミックな日本史の流れも見えてきます。ここは、青空博物館、重要な歴史が点在しているのです。

かつては、大変な文化の集積地であったここが、現在になって文化の過疎地になるのを黙って見ているわけにはいきません。そこで、安楽寺に能舞台をしつらえ、「美馬能楽の会」を立ち上げたのです。



安楽寺の能舞台